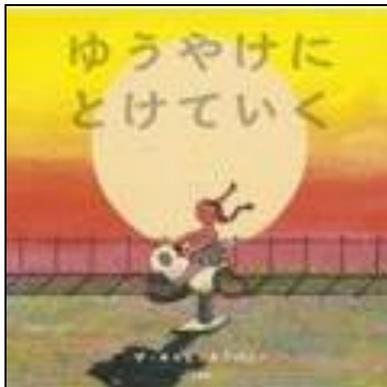


# 職員オススメ本 11月



「ゆうやけにとけていく」

ザ・キャビンカンパニー／著 小学館

夜明けの太陽も美しいけれど、夕暮れから夜にかけて沈みゆく太陽も負けないくらい美しい。1日の終わりに向かう私たちの様々な感情と日常の喧騒から変わりゆく美しい情景の数々を「ゆうやけ」が包み込み、溶けるようにして訪れる穏やかな夜。日本絵本大賞を受賞したこの本、絵はもちろんのこと文（詩）もとても印象的。お子さんだけではなく大人にも「刺さる」一冊です。

皆さん、思い出に残る夕暮れ時の風景はありますか？



「水木しげるのラバウル戦記」

水木 しげる／著 筑摩書房

太平洋戦争の激戦地ラバウルへ一兵卒として送り込まれた著者。敵の奇襲で部隊は全滅、著者は片腕を失いますが生き残り、終戦後帰国し、たくさんの作品を描かれます。戦地にあっても変わらず平らかな目線。のんきで朗らか、強運で健康な心身であることが感じられる絵物語風の戦記。



「天国映画館」

清水 晴木／著

中央公論新社

小野田明が目覚めると、不思議な場所にいた。青々とした芝生が覆っている丘の上。空はどこか懐かしいような夕暮れ空。歩き始めて数分も経たない内に見えてきた映画館。そこは、天国から旅立つ直前に、自分の人生が上映されるらしい。記憶を失っていた小野田は天国映画館の支配人・秋山に誘われ、一緒に働くことになるが、様々な人々の人生を観るうちに、自らの記憶や心境に変化が。そしてついに、自分のフィルムが届き…。

～あなたの人生の名シーンはいつですか？～